

企画展

◆平成25年度 栗東市元氣創造事業◆

馬のまち栗東

平成25年9月14日(土)～10月27日(日)

栗東歴史民俗博物館



天狗岩からJRA栗東トレーニング・センターを望む

昭和29年（1954）に誕生した栗東町は、昭和38年（1963）には名神高速道路栗東インターチェンジが設置されるなど、昭和30年代前半までの純農村から高度経済成長期を経て、急速に都市化への道のりを歩んでいくこととなります。

栗東インターチェンジなどとともに、栗東のまちづくりに大きな影響を与えたのが、日本中央競馬会（JRA）の栗東トレーニング・センターです。JRAが設置を検討していた競走馬のトレーニング施設の誘致に、栗東町が名乗りを挙げたのは昭和38年（1963）のことで、昭和44年（1969）に開場しています。以後、トレーニング・センターは栗東のまちづくりに大きな影響を与えると同時に、栗東に「馬のまち」という新たなイメージをもたらしてきました。

今回の企画展では、栗東とJRA栗東トレーニング・センターの関わりをご紹介します。またあわせて、日本中央競馬会のトレーニング・センターが栗東に設置されるよりも前の昭和初期に、滋賀県で催されていた地方競馬についてもご紹介します。

なお、本企画展は、「平成25年度栗東市元氣創造事業」に採択されています。

現在の競馬の原型となる近代競馬は、江戸時代末期の文久2年（1862）に、横浜で居留外国人のレクリエーションとして始まりました。現在の日本の競馬は、日本中央競馬会（JRA）が施行する中央競馬と、地方公共団体が施行する地方競馬に分かれています。

地方競馬は、明治43年（1910）に、地方の産牛馬組合（大正10年以降畜産組合）に対して許可されたのが発祥とされています。滋賀県でも、昭和時代の初期に地方競馬が開催されるようになりました。

大津練兵場での競馬

大正12年（1923）4月、馬券の発売を正式に認める競馬法（旧競馬法）が制定され、昭和2年（1927）8月に農林省令で地方競馬規則が発せられたのをきっかけに、各地で地方競馬の開催が計画されるようになります。滋賀県では、畜産組合連合会が大津練兵場を借用し、春秋に地方競馬を開催しました。



第九連隊兵舎全景 明治時代末期
大津市歴史博物館 所蔵

明治6年（1873）1月、明治新政府によって徴兵制が施行されると、全国を6つの軍管区に分けて、その下に連隊が置かれました。大津には、明治8年（1875）に第四軍管大阪鎮台所属の第九連隊が移駐しています。

現在の滋賀県立大津商業高校の場所に兵舎が建ち並び、兵舎の東側には練兵場が設けられていました。

草津競馬

昭和5年（1930）の地方競馬規則の改正により、地方競馬の開催には常設競馬場が必要とされました。そこで、昭和6年（1931）、栗太郡治田村渋川（現在の草津市渋川）に草津競馬場が建設されることとなります。草津競馬場の建設は滋賀県愛馬倶楽部によって行なわれ、滋賀県畜産組合連合会が競馬を主催することとなりました。草津競馬場は昭和6年（1931）の5月に完成し、同年の6月5日には最初の競馬が開催されました。連日、10,000人ももの観客で賑わったといいます。

その後、昭和14年（1939）までの間、春秋の年2回の競馬が開催されました。出走する馬の多くは、近くの農家で飼われていた農耕馬で、地元の若者たちも騎手を務めていました。まれに中央競馬から馬が来ることもあり、競馬ファンのみならず、近くに住む人たちにとっても娯楽の機会となっていたのです。競馬を開催していない時には、畜産共進会（昭和11年）、優良農具展（昭和13年）などの会場としても利用されました。



草津競馬ポスター
昭和10年（1935）
栗東歴史民俗博物館 所蔵

「草津名所絵はがき」より草津競馬場
昭和初期
草津市立草津宿街道交流館 所蔵

昭和12年（1937）の日中戦争の開戦など、戦時色が強まる中で、地方競馬も「軍用保護馬鍛錬競争」として軍隊式の競馬に改められました。草津競馬場でも昭和15年（1940）から昭和19年（1944）までは軍用保護馬鍛錬競争として開催されています。また、草津駅から近いということもあり、軍の物資集積場としても用いられました。

戦後の草津競馬は、地方競馬法が公布された昭和21年（1946）に再開され、新競馬法が公布された昭和23年（1948）には県営競馬場となりますが、昭和26年（1951）3月の開催を最後に休止となります。その後、草津競馬場は正式に廃止となり、昭和29年（1954）には県立草津農業試験場の養鶏場に転用されました。

昭和22年（1947）の草津競馬場（米軍撮影）

栗東歴史民俗博物館 所蔵

草津駅の西側すぐの場所にあった草津競馬場は総面積132,000㎡で、20,000人を収容することができました。楕円形の馬場の距離は1,000mで、観覧所や投票所などの付属の建物も設けられていました

馬場の内側は田んぼのままで、田植えや稲刈りも行なわれたと言います。



昭和29年（1954）、日本中央競馬会法が公布され、日本中央競馬会（JRA）が発足しました。昭和37年～38年（1962～63）頃からの中央競馬は、高度経済成長の波に乗って、隆盛の道を辿ります。当初は、東京・中山・京都・阪神・中京の5大競馬場が、①競走馬の常駐地、②調教場、③競技場という役割を担っていましたが、競馬の隆盛に伴って、競走馬が常駐して調教に専念できる場所・施設の必要性が高まるようになります。

日本中央競馬会で設置が検討されていた競走馬のトレーニング専用施設の誘致に、栗東町（当時）が名乗りを挙げたのは昭和38年（1963）のことでした。

栗東トレーニング・センターの開場

栗東町御園の地に日本中央競馬会栗東トレーニング・センターが開場したのは、昭和44年（1969）11月のことです。栗東町がトレーニング・センターの誘致に名乗りを挙げたのは昭和38年（1963）のことで、町を挙げての一大プロジェクトとなりました。「競馬」という新しい世界に、住民たちからはとまどいの声も上がりましたが、栗東町の精力的な働きかけもあって、用地の確保はわずか4ヶ月で達成されています。

トレーニング・センターが栗東に立地した理由として、昭和38年（1963）に開通していた名神高速道路により、京都・阪神・中京の各競馬場まで、迅速かつ安全に競走馬を輸送できることが挙げられます。また、トレーニング・センターの設置は、高速道路建設の目的の1つである丘陵地域の開発が実った代表例といえることができます。



栗東トレーニング・センター用地の地権者たち
京都競馬場にて撮影、個人蔵

競馬が今日ほど一般に普及していなかった時代、トレーニング・センター用地の地権者の中には、不安を抱く人も多かったと言います。

このため、栗東町と日本中央競馬会では、地権者たちに競馬を見てもらい、理解を得ようと京都競馬場を視察しました。

地権者たちの協力もあり、栗東町による用地の確保は円滑に進められました。

トレーニング・センターの総面積は約143ヘクタールで、約42ヘクタールの馬場と、約2,000頭の競走馬を収容できる厩舎のほか、職員・調教師・騎手・厩務員やその家族が生活する住宅や付属施設を持ち、一大ニュータウンとなりました。開場翌年の昭和45年（1970）には約3,000人の関係者が移り住んでいますが、これは当時の栗東町の人口のおよそ13%を占める規模となっていました。

馬のまち栗東

栗東トレーニング・センターの開場は、周辺施設の整備など、栗東のまちづくりにも大きな影響を与えました。名神高速道路の栗東インターチェンジと、トレーニング・センターを結ぶ県道栗東・信楽線の改良工事をはじめとする道路整備などがその一例です。その他、開場時に3,000人が移り住んだトレーニング・センターの人口は、昭和50年代前半には4,000人を越え、就学児童が約3倍に急増した金勝小学校では、増築などの対応がとられました。

昭和48年(1973)には、乗馬普及活動の一環として乗馬苑が開設され、「馬に親しむ日」を昭和55年(1980)から開催するなど、地域との連携も進められました。また、昭和56年(1981)のびわこ国体では、乗馬苑が馬術競技の会場となるなど、「馬のまち栗東」という新しいまちのイメージが描かれていきました。

その他、栗東町制30周年を記念して昭和59年(1984)に京都競馬場で開催された「栗東特別」は、昭和61年(1986)からは「栗東ステークス」として開催されるようになりました。平成25年(2013)で30回の開催を数え、「馬のまち栗東」のPRに大きな役割を果たしています。



JRA栗東トレーニング・センターでは、「馬に親しむ日」の開催以外にも、折に触れて馬と触れ合うことの出来るイベントや施設見学を開催し、馬を身近に感じる事の出来る機会を提供されています。

JRA栗東トレーニング・センター
JRA栗東トレーニング・センター 提供



びわこ国体 馬術競技パンフレット
昭和56年(1981)
栗東歴史民俗博物館 保管

栗東町がトレーニング・センターの誘致に名乗りを挙げてから50年。栗東市では、これからも「馬のまち栗東」をPRしていきます。

主な参考文献

- 滋賀県農業協同組合中央会『滋賀県農業団体史』(1960年)
- 地方競馬全国協会『地方競馬史』第一巻(1972年)
- 草津市史編さん委員会『草津市史』第四巻(1988年)
- 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史』第三巻 近代・現代編(1992年)
- 日本中央競馬会栗東トレーニング・センター『栗東トレーニング・センター20年史』(1989年)
- 日本中央競馬会栗東トレーニング・センター『栗東トレーニング・センター30年史』(1999年)
- 日本中央競馬会栗東トレーニング・センター『栗東トレーニング・センター40年史』(2009年)

謝 辞

本展覧会開催にあたり、下記の機関・方々にお世話になりました。記してお礼申し上げます。(敬称略)
大津市歴史博物館 草津市立草津宿街道交流館 滋賀県県政史料室 西岡写真工房 日本中央競馬会栗東トレーニング・センター
岩間一水 梅澤幸平 大月英雄 奥村晃代 工藤克洋 小林仁 高橋大樹 遠塚政弘 内記義範 中村久郎 西岡千春 樋爪修 八杉淳

凡 例

- このパンフレットは、平成25年9月14日(土)から10月27日(日)までを会期とする、栗東歴史民俗博物館の企画展「馬のまち栗東」の啓発用パンフレットです。
- 企画展「馬のまち栗東」は、栗東市の平成25年度元気創造事業に採択されています。
- このパンフレットの執筆・編集は中川敦之(本館学芸員)が行ないました。

企画展「馬のまち栗東」

- 会 期** ●平成25年9月14日(土)
~10月27日(日)
- 編集発行** ●栗東歴史民俗博物館
滋賀県栗東市小野223-8
TEL 077-554-2733
- U R L** ●<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan/>
- 印 刷** ●株式会社スマイ印刷